

SYS (親切で優しく誠実) な医者になりたい

今回ご紹介する先生は、浜田市熱田町のすみれ小児科・瀧川 弘敏先生です。

いまはむかし…私は広島県福山市で生まれ、広島大学を卒業の後、岡山大学小児科に入局しました。家内は浜田市蛭子町で生まれ、浜田高校を経て岡山大学を卒業。私たちは医局の同門会を通じて知り合いました。勤務医時代は山陽新幹線に沿ってほぼ3年毎に転勤があり、諸先生方の指導や貴重な臨床経験を得る良い機会となりました。この間3人の子どもの生まれ、家内にとっては子育てと仕事の両立という大変な時期でもありました。「子どもが好き」ということと、浜っ子らしい「楽天的気質」が支えになったように思えます。岡山市と尾道市での生活が一番長く、子ども達は学齢期を終えて、上の二人が大学生、下の子が浜田高校に入学した時点で浜田市熱田町に「すみれ小児科」を開業しました。

医院経営はゼロからのスタートでしたので、医療センターや医師会の先生方には多方面にわたり助けて頂き、またスタッフにも恵まれたおかげで今日までやってこれました。厚く御礼申し上げます。

「お二人とも小児科なんですね、、、」とよく言われます。これは二人が同じ科を標榜するのは良い点もそうでない点もあるだろうということだと思います。私たちにとっては互いに補い合っ、二人合わせて100点を目指しているのととても助かります。いつでも、話し合いは良い知恵をもたらしてくれます。

少子化と言われて久しいですが、「子どものいない社会に未来は無い」ので、小児科医としては「住みやすく、子育てしやすい町」になるよう貢献できたらと思っています。子ども達は、経験値も言葉も経済力も腕力も無く、にもかかわらず私達大人と同じように喜び悲しみながら生きています。一方、母親も父親も初めて子どもの親になるわけで、何もかも教わった後で親になった訳ではありません。初めて車を運転して路上に出たようなものなので不安だらけです。私は子ども達に対して、小児科医として僅かながらでも手助けできれば、今まで私が医師になる過程でお世話になった方々へのせめてもの恩返しだと思っています。

私も少し前に還暦を迎えました。若かったころに先輩の先生に教わった事はたくさんあります。今ふと思い出すのは、「検査の前に深く考えよ」と言われたことです(問診と診察、そして洞察)。それにText Book(NelsonやRudolphなど)をよく読むようにと言われました。過日、海外の学会に出かけてきました。ホテルから会場まで電車を利用し、会場までの道のりをトボトボと歩いていると、初老の



gentlemanから声をかけられました。

“Are you pediatrician?”(あなたは小児科医ですか?) 思わず、私は“Ye,,Yes”と返答しましたが、後が続きません(涙)。この場合”And you?”とか”You too?”とか言うんでしょうか。もっと英語の勉強をしておけば良かった。

趣味はガーデニング、温泉、クラシック音楽・・・家内は草取りや花の植え替えに追われています。おかげで健康になれそうです。私は自作直熱3極管アンプでイタリアオペラを聴くのが至福の時です。

今後の目標?…そうですね、「親切(S)で優しく(Y)そして誠実(S)」な医者になりたい。それと「一杯の酒」でしょうか。

インタビューを終えて.....

「診療所を建てる際に、随所木を使用することで病院では無いような雰囲気を作って、子どもが怖がらずに落ち着いて来れるような雰囲気作りをしています。夕方になると子どもが集まって保育園のような状態になります。」と語られた先生は、ほのぼのとした雰囲気とても親しみやすい方でした。



すみれ小児科

院長 瀧川 弘敏

F697-0062
島根県浜田市熱田町541-1
TEL/FAX 0855-26-1006

診療科目/小児科、アレルギー科
診療時間/毎週月～火、木～金・・・9:00～12:00、15:00～18:00
水・土・・・9:00～12:00
休 診 日/水・土曜日午後、日曜日、祝祭日

感覚器科としてQuality Of Life (QOL) の向上を

続いてご紹介する先生は、浜田市黒川町のごうばら耳鼻咽喉科・郷原 良治先生です。

私は高校まで浜田で過ごしました。浜田高校卒業後、広島大学に進学しました。大学卒業後すぐに広島大学医学部耳鼻咽喉科学教室に入局しました。その後は主として広島県内の病院に勤務しました。浜田に戻って現在の医院を開業したのは平成12年のことです。昭和39年2月生まれで現在52歳ですが浜田医師会の中ではまだまだ若輩者です。若手のホープ(自称)として地域医療に貢献すべく日々努力していく所存です。

動物や人が外界を感知するための多種類の感覚機能のうち、古来からの分類で五感といわれるものがあります。視覚、聴覚、嗅覚、味覚、触覚の五つの感覚のことです。耳鼻咽喉科はこのうち聴覚、嗅覚、味覚の3つを担当するだいたいの役割を担っていると思っています。感覚器科と標榜してもよいかもしれません。

聴覚障害、嗅覚障害、味覚障害の的確な診断、・治療が重要ですが、治らなかった場合もそれで終わりではありません。聴覚障害の場合であれば補聴器装用をすすめたり、それに伴う身体障害者診断書や補聴器意見書の作成など、その人の生活の質(QOL)を高めるためのフォローが必要です。ある人がどれだけ人間らしい生活や自分らしい生活を送り、人生に幸福を見出していけるか。特に高齢化が進む中でその人のQOLを向上するのに耳鼻咽喉科が果たす役割はますます大きいと感じています。

また耳鼻咽喉科は乳幼児を多く診察する科でもあります。風邪が流行る時期には急性中耳炎などを罹患する子供が増えます。安全に診察・処置を行うためにはしっかりと患児を固定することが大切で、嫌がって暴れる子供を抑えつけるには保護者の協力も必要ですが何といたっても大変なのは看護師です。私は固定された子どもを診るだけで力はいりませんが看護師は子供の診察が終わった時にはぐったりということも珍しくありません。そんなわけで当院の看護師はみんな私より腕力が強いです。

趣味はスポーツ観戦です。この時期は診療が終わるとビール片手にスカパーで広島カープを応援しています。当時の島根では巨人戦しかテレビ中継しなかったためかもしれませんが子供のころから巨人ファンで、高校の時は月刊ジャイアンツを愛読していました。大学時代は医学部のバレーボール部に所属していました。練習の合間にカープファンの先輩に巨人ファンの後輩はしごかれるという理不尽な迫害にも耐えました。広島市民球場では3塁側かレフトスタンド片隅のアウト側で観戦していました。しかし時が流れて広島での生活が長くなってく



ると不思議なもので、いつからか定かではありませんが気がつくと完全なカープファンに生まれ変わっていました。ライトスタンドに陣取り、立ったり座ったりの応援をしていたのです。

最後に、この地域の医療を微力ではありますが支えていこうと思っております。至らない点もあるかと思いますがよろしくお願いいたします。

インタビューを終えて……………

「2年ほど前から子どもがピアノを習い始めたので、私も少しやるようになりました。今までピアノとは縁が無かったので苦勞もありますが、ピアノ教室で子どもと切磋琢磨しています。」と語られた先生は、強さと繊細さを兼ね備えた方でした。



ごうばら耳鼻咽喉科

院長 郷原 良治

〒697-0024
島根県浜田市黒川町213-1
☎0855-24-3211 FAX0855-24-3212

診療科目/毎週月～火、木～金…9:00～13:00、15:00～18:00
診療時間/水・土…9:00～13:00
休 診 日/水・土曜日午後、日曜日、祝祭日